

## 委員および一般からの意見

委員からの流域委員会の審議に関するご意見、ご指摘（2001/5/9～2001/8/20）

2001/05/14

書面

村上 悟委員（琵琶湖部会）

---

### 委員からのプレゼンテーション実施についての提案

先日の琵琶湖部会において、植田琵琶湖工事事務所長がプレゼンテーションの冒頭に流域委員会の今後の進め方をお話されました。たしか以下のような図だったと思います。

【現状】 河川管理者の知っていること + 委員の知っていること

【課題】 河川管理者の知っていること + 委員の知っていること

【対策】 河川管理者の知っていること + 委員の知っていること

僕個人としては、このフロー自体の問題点も感じないわけではありませんが（ ）、この「委員の知っていること」を共有する方法として、各委員から以下の内容で10～15分程度のプレゼンテーションを行うことを提案します。今のところ、2回の現地視察の後がよいと考えています。

- （1）琵琶湖および流入河川の現状と課題 - 私はこう見る 現地視察の経験も元に
- （2）20～30年後の将来像
- （3）それに向けたプロセス、今誰が何をやればよいか
- （4）流域委員会の進め方

各委員の「視点」を互いに知り、「夢」と「プロセス」を出し合うことで、相互理解と合意形成のベースをつくるのがねらいです。

（2）や（3）の項目をわざわざ入れたのは、僕の経験上、合意をつくっていくのはあくまで「誰が何をするのか」という、具体的、現実的な議論であると思うからです。

ただ、時間が問題です。一人15分とすると、20人でまるまる5時間がかかります。10分だとしても3時間20分。半日は完全につぶれるし、いっきに20人、というのは辛いです。

2回に分けて、一人15分＋質疑5分とし、10人で3時間20分、というのが現実的かと思います。

せめてそのくらいはやるのが委員の義務だと思いますがいかがでしょうか。少なくとも僕はやりたいです。また、こうしたものを発表しなければいけないとなれば、現地視察のときの委員の

モチベーションも変わると思います。多くの傍聴者の方にも持ち帰っていただくものが多いと思いますし、この内容だったら（シンポジウムのように）一般からの参加もかなり望めるのではないかと思います。

ご検討願います。

補足 - 僕個人としては、宗宮委員が書類で提出されていた（5.11 参考資料 2 p3）ように「夢を語る」プロセスが必要だと思っています。さもないと諸処の問題を生んできた一要因である「後追い行政」からの脱皮ができないと思うからです。

したがって僕の提案は、この３段階のプロセスを無視した形になっています。ただし河川管理者と委員との間の共通認識を作る、ということに重点を置いていることには変わりありません。

小林 圭介委員（琵琶湖部会）

---

（第2回琵琶湖部会ご欠席にあたり以下のご意見をいただきました）

現地視察に関して下記の点をコメントします。

記

- 1 丹生ダム周辺に関しては、6月1日にも、川を腰までつかって徒渉したり、絶壁をよじ登ったりしなければならないような現地において、1日中、貴重植物についての保全対策を関係者に指導してきました。河川や琵琶湖の環境保全対策については、現地を熟知した専門家による保全対応策を事業者側に指導したり、事業に反映できるような体制や仕組みづくりを早急に検討すべきである。川のなかでずぶ濡れになったり、手足を擦りむいて岩をよじ登ったり、また、熊よけの鈴を鳴らして、山中で道路の工法や貴重種の保全対策を指導しながら、淀川水系流域委員会で行っている高邁な議論が、いまさら必要なのかどうか、疑問に思えたのは間違いなのだろうか。
- 2 西の湖周辺のヨシ群落については、滋賀自然環境研究会が3年間にわたって委託調査を行っている。平成14年度には報告書ができあがるので、参考にしてもらうことも可能だと考えます。
- 3 新海浜の侵食の問題は、愛知川が氾濫後、下流域から河口付近まで大規模な整備がなされ、そのため、湖岸線の波浪に物理的な変化が生じて、新海浜付近に侵食地域が生じたことが最大の原因である。次には、上流部にダムや多くの砂防堰堤が建設されたために、愛知川河口に土砂の供給が途絶えたことが原因している。いずれにしても、この新海浜付近の侵食は、ある程度のところでおさまるが、同時に、現在侵食を起こしていない他の場所で新たな侵食が始まるものとする。ただ、新海浜から薩摩付近までには、タチスズシロソウなど、県民にはあまり知られていない貴重植物が生育しており、その対策の方も重要な課題である。
- 4 平湖・柳平湖周辺の整備については、滋賀県の検討委員会で内容の濃密な議論をしており、その報告書を参考にすべきである。

2001/06/20  
書面

倉田委員（委員会・琵琶湖部会）

---

これまでのところ、治水工事の技術的説明に終始する整備局の姿勢に甚だしく不満があり、治水工事によって、工事以前と以後の違いがどうなったかの自己点検評価をされている筈で、それを必ず説明するように伝えていただきたい。

漫然と集まるのではなく、課題を立てて頂いて、それについて協議するようにして頂けば、事前に資料や意見を整理して臨めます。単に「井戸端会議」になるようだと出席の意欲を欠き易いです。

2001/07/18  
電話

寺川委員（委員会・琵琶湖部会）

---

（7/24 の第4回委員会における委員からの情報提供、河川管理者からの情報提供に関して以下のご要望、ご意見を頂きました。この内容について委員長にご報告したところ、河川管理者からの情報提供に関して「可能な範囲で寺川委員が希望している資料についても提供をお願いする」という指示を受けましたので、河川管理者に内容を伝えて情報提供をお願いしています）

（委員会開催案内に記されていた委員からの情報提供について）私から情報提供したいことがあるので資料を準備します。

私が準備を予定している資料を補完する位置づけで、河川管理者に情報提供をお願いしたいことがある。淀川工事事務所が淀川の水上バイクについて何らかの調査をされていると聞いており、その調査について情報提供をお願いしたい。

また、今回は環境について河川管理者から情報提供がされる予定となっているが、クマタカに関する資料も是非加えておいて欲しい。

一般からの流域委員会へのご意見、ご指摘（2001/5/8～2001/8/20）

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
1	市 民 の ひ ろ ば ・ 増 田 京 子 氏	第 1 猪	5/8	<p>大阪府の「水と緑の健康都市」計画が当初案から5分の1に縮小された案が、府から提案されています。私自身はこの案も当初案も大阪府の財政の厳しさと、オオタカ営業が今年は前回の場所に営業していませんが、この近くに営業している可能性もあることなどの状況を考慮にいと、廃止にするしかない開発だと判断しています。</p> <p>そして、この開発と一体化した「余野川ダム」についてですがダムの利水を「水と緑の健康都市」で1日10000トン利用する計画で進められていますが、同じく90000トン利用する阪神水道企業団も水が余っている状況です。</p> <p>また府営水の豊能、能勢への導入も進んでいます。そのような社会状況の変化を捉える必要があると思います。検討結果をお示しいただきたいのですが如何でしょうか。</p>
2	大 阪 自 然 環 境 保 全 協 会 ・ 岡 秀 郎 氏	第 1 猪	5/14	<p>全般的に自然環境の保全を重視し、地域の声を施策に反映させなければならない。行政はとかく、単なる施策・予算の執行によって、自然環境の保全や地域の声を犠牲にしてきたが、そうした行政から脱していかなければならない。</p>
3	グ ル ー プ カ レ ッ タ ・ 松 井 恵 子 氏	-	5/21	<p>河川の監視（河川パトロールカー）についてのご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川の監視について、流域委員会でどのような議論になっているか、また、河川監視について詳しい人がいるか</li> <li>（「流域委員会ではまだ、そこまでの議論はでていない。今後の検討経過については、議事録等でみてほしい。」と返答しました）</li> <li>・河川の監視は、一般の人にはあまり知られていないが、重要である。</li> <li>・パトロールに使われている車（河川パトロールカー）は、働く車としては警察のパトカーや消防車などに比べて、十分認識されていない。子供たちなどに対して、もっとその存在や働きについて広めたい。個人的な活動として河川パトロールカーの存在を様々なところへ紹介している。</li> <li>・河川のパトロールで監視するのは河川関係の施設の状況だけで良いのか？河川法が改正されて、環境も重要になってきており、環境に関することについても監視、観察をおこなうべきであると思う。</li> <li>・このような流域委員会の庶務の役割を担うのであれば、河川パトロールカーの存在を認識し、実際のものを見て欲しい。</li> </ul>
4	滋 賀 県 能 登 川 町 住 民	第3委	5/28	<p>1、琵琶湖の水位操作について</p> <p>現在の琵琶湖の水位操作は、琵琶湖の生態系に配慮したものとは思えず、かなり大雑把なもののように感じています。</p> <p>冬季の水位低下、魚の産卵期の水位上昇など、かつての琵琶湖の水位変動に近い形で、きめ細かな水位操作により、できる限り、琵琶湖の生態系に配慮した水位操作に改めていただきたいと思います。</p> <p>2、ダム開発について</p> <p>ダムはいずれ埋まってしまうものであり、自然の生態系を破壊するものなので、ダム開発は再検討し、できるだけ他の方法を考えていただきたいと思います。特に、大戸川ダム、余呉町の丹生ダムの建設は中止していただきたいと思います。</p>

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
5	東 京 都 世 田 谷 区 ・ 関 正 雄 氏	×	6/4	淀川の河川整備基本方針の策定状況を知りたいのですが。流域委員会と同時進 行で、近畿地方整備局内で検討され続けているのでしょうか？それとも、流域 委員会で検討するのでしょうか？ ( このお問い合わせに対しては、「基本方針は流域委員会の審議対象にはな っていないため、整備局へ問い合わせ頂けないか」と返答しました )
6	京 都 府 城 陽 市 ・ 橋 本 崇 弘 氏	-	6/8	第 2 回委員会の資料 2-1-2 についての修正ご意見がありました。 具体的な修正内容については河川管理者に伝えております。
7	平 成 維 新 を 実 現 す る 会 ・ 大 阪 ・ 浦 野 穂 正 氏	第 3 委	6/11	大阪府の水不足への対処は大阪府と大阪市との水利権の融通で解決できるは ずだと思われます。もし、できない理由があるなら、その根拠を資料でお示し ください。
8	瀬 田 川 リ バ プ レ 隊 ・ 谷 村 信 氏	-	6/14	* 淀川部会での委員による各河川の現地視察の様様（各委員の見学所感 ）が 6 / 1 8 の委員会で聞けると幸いです。 * 河川の現地視察は一般の参加も是非お願いしたい。
9	Green Wave ・ 井 上 哲 也 氏	第 3 委	6/15	第 2 回委員会、第 1、2 回琵琶湖部会に参加して感じたことだが、委員会等 参加の行政側に環境省（環境面）、経済産業省、農水省（利水面）、厚生労働 省（水質面）の担当者がいないのはおかしい。必要に応じていれるのはなく、 最初から入れるべき。 上記理由により委員会等の行政側からの説明、議論の内容が、治水、利水（量 的な側面）著しくかたよっている。 このままだと、利水の質的（水質、安全性）な部分が議論できないのでは？ また、量的な部分についても、使うことを前提にしたダム等の話ばかり で、中水利用の促進（経済産業省）、使用の削減の啓発（環境省）等の話が出 てこないのでは？
10	総 合 科 学 株 式 会 社 ・ 松 田 幸 恵 氏	第 3 淀	7/4	淀川水系流域委員会の案内はインターネットだけでしょうか。ポスターやパ ンフレットの配布などは行っていないのでしょうか。ポスターなどは一般のか たへの情報提供に良いのではないかと思います。 ( このお問い合わせに対して庶務より現状の広報についてご説明、返答した ところ、下記（一部抜粋）の返信をいただきました。 ) 7 月 6 日（金）に開催される第 3 回淀川部会への参加が会議への初めての参 加となります。淀川流域委員会を知るのが遅かったために、第 1 回から参加す ることができませんでした。そこで、どのような形で広報を行っているのか知 りたかったのです。ニュースレターの配布を関係施設だけでなく、市町村にも 広げることは、さらに広く市民のかたへも情報提供できることから、とても良 いことだと思います。 部会当日、ニュースレターを拝見させていただこうと思っています。

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
11	発言者不明	×	7/6	ホームページについての意見 プライバシーポリシーが明らかにされていない。 Y A H O O などへのカテゴリー登録がなされていない。 資料も含めた検索機能があれば
12	堀 川 に 水 を 流 す 運 営 委	×	7/9	猪名川部会への意見(猪名川部会ニュース No.1 の返信用 FAX にて送られてきた文章です) 1、まず、全体が「淀川水系」であるとしても、猪名川部会に特化して、徹底的に、少なくとも2～300年前から議論するのは当然で、河としての淀川ではなく、「神崎川」と一対で議論すべき。 1、“河川課”と称する部門は、ここせいぜい50年間程度のことしかわかっておらないようで(日本国土の破壊が進んだ時期に当る)歴史的事象を何も知らない人多すぎる。(世代が交替しており、貴重な事象が欠落) 1、治水管理のみをやってきた結果、2Pの委員の発言にあるように(下半部)、夢もビジョンも持てない委員は、即刻辞退すべき。河川管理と民族文化を少なくとも峻別して議論し、適宜正合を図る運営方法をとるべき。(工学主導の時代は終わっている) 1、伊丹の酒の話も出ずして何が猪名川か、あまりにも幼稚でなさけないではないか。 1、大自然の驚異も一度も体験していない世代には、100年以上を見通す想像力が不可欠。(何の為の部会長か) PS. (関西人はおとなしすぎる。)
13	城陽市 橋本崇弘氏	×	7/12	流域委員会に対し、個人としての提案、考え方を用意いたしましたものを送付致します。 別紙1を参照下さい。
14	関西のダム と水道を考 える会 浦野穂正 氏	第4委	7/18	第3回淀川水系流域委員会を傍聴させていただきましたが、我々庶民には結婚式でさえ手がでないような豪華な会場でびっくりしました。 前は平日夜7時からということということで、サラリーマンなどの傍聴を考慮なさり、交通アクセス等の面からターミナル駅の駅前という条件から、有名ホテルの大広間という選択となったと解釈しました。 今回の平日の昼間という時間設定は、一般社会人の傍聴にはかなり制約があり、どのような判断からこのような時間設定にされたのか疑問を感じますとともに、上記私どもの解釈が誤りであったことを悟りました。 当方としましては、河川の自然環境の保護や沿岸地域の安全面の問題は十分重要性を感じているところではありますが、河川行政においても財政面を重視すべきと考えております。 瑣末な問題と思われるかも知れませんが、会場の設定ひとつをとりましても贅沢ではないかと考える姿勢が必要なのではないでしょうか？ また、民間企業への委託により当委員会が開かれたものであるとの印象を与える効果を狙っておられるように推察されますが、庶務のような職務こそ行政マンのマンパワーを活用すべきであり、受託料が相当高いのが明らかな一流どころのシンクタンクを使うなど私どもには経費の無駄使いとしか思えません。 私どもは流域委員会に大いに期待しております。まだまだ始まったばかりでありますし、運営方法を改めて頂きたいお願い申し上げます。

	発言者 所属等	傍聴 希望	受 取 日	内 容
				( このご意見については、庶務より会場選定や開催日時設定の考え方やこれ までの経緯についての説明文を返信しました )
15	前田建設工 業 森脇榮一氏	第4猪 第4琵琶 第5委	8/1	<p>[河道容量について]</p> <p>第二回委員会で説明のあった河道容量を、河川整備水準の指標とすることについては、どうしても納得できません。</p> <p>私は流量観測などで洪水の状況を度々、現地で見えていますので、堤防天端まで洪水水位が高まった場合の恐ろしさが実感として認識できます。(現在の国土交通省の職員は定員削減により河川関係事務所の職員が少なく、大洪水時には、洪水情報の伝達、洪水予報、水防指令、被災個所の情報収集等の机上の業務に追われ、殆どの職員が、担当河川の洪水を現地で見ることはないと思います。また委員、一般聴衆の方々も洪水の状況を、テレビで見ても現地で見た人は少ないでしょう。)</p> <p>洪水で堤防天端まで水位が高まった場合には、風や河道内の障害物によって波浪が発生し、波の高まった時には洪水が堤防を越流して、堤内側の堤防斜面を越流水が流れ落ちて堤防を浸食し、放置すれば確実に破堤します。このような状況になると、越流を防ぎ破堤をくい止めるために、堤防上では大勢の水防団や自衛隊が必死に土俵を積み上げている緊急事態であります。</p> <p>従って、河道容量は水防対策を実施しなければ破堤する極めて危険な流量であるので、委員等の方々に、河道容量を河川整備水準の指標として認識していただくことは好ましいことではありません。</p> <p>少なくとも、その河川で発生すると予想される波の高さを正しく推算して、堤防高から減じた水位(=極限洪水位)における流量を極限整備流量(適切な表現ではありませんが)として、委員会で認識していただく必要があるのではないかと思います。</p>
16	関西のダム と水道を考 える会 浦野穂正氏	第4琵琶	8/17	委員会会場費、委員謝礼、庶務委託費など項目別の総額で結構ですから開示いただきたく、お願い申し上げます。
17	関西のダム と水道を考 える会 野村東洋夫 氏	第4琵琶	8/18	私たちのグループは滋賀県の「丹生ダム」というダム計画に強い関心を持っており、8月22日の琵琶湖部会において、委員の方々に何とか私達の考えを伝えたいと思い、急いで作った文章がこれです。別紙2をご参照下さい。









「淀川水系流域委員会及び同琵琶湖部会への要望」

「関西のダムと水道を考える会」

( 代表 ) 野村東洋夫

私達は大阪に拠点をおいて、主として大阪府のダム開発(水源開発)について調査研究を行っている市民グループです。

ご承知かと思いますが、大阪府は現在、5つのダム計画に参画しています。いずれも水源開発が目的です(唯一、安威川ダムだけは、大阪府自体が事業主体であるため、治水目的も含んでおります)。

ご参考までに、それぞれの建設地、事業主体名、総貯水容量は次の通りです。

1、丹生ダム	(滋賀県)	水資源開発公団	1億5000万m <sup>3</sup> (立方米)
2、大戸川ダム	(滋賀県)	国土交通省	3360万m <sup>3</sup>
3、安威川ダム	(大阪府)	大阪府	2290万m <sup>3</sup>
4、紀川大堰	(和歌山県)	国土交通省	510万m <sup>3</sup>
5、紀伊丹生川ダム	(和歌山県)	国土交通省	6040万m <sup>3</sup>

参画の理由として大阪府は、府下における将来の水需要が大幅に増大するとの府水道部の水需要予測を上げ、大阪府が現在、淀川に持っている水利権223万m<sup>3</sup>では不足であり、これを282万m<sup>3</sup>にまで引き上げる必要があると言い続けて来ました。

因みに、大阪府が上記のダムから獲得を予定している水利権は次の通りです(H12年12月現在)。

1、丹生ダム	214,000 m <sup>3</sup> /日
2、大戸川ダム	35,000
3、安威川ダム	76,000
4、紀川大堰	25,000
5、紀伊丹生川ダム	242,000
(計)	592,000 m <sup>3</sup> /日

ところがその一方で大阪府は、平成11年の府営水道値上げの議論において、「大阪府の水需要は当面、横這い」と予測し、「従って料金収入の増加が見込めないから料金値上げも止むを得ない」と主張していたことが私達の調査で判明したのです。

私達はこの矛盾を取り上げ、

- 1) 大阪府の水需要は今後も伸びないとする後者の予測こそが妥当である。
- 2) 二つの異なる予測を巧妙に使い分け、誤った予測に基づいてダム計画に公金を支出することは不当である。

として、昨年9月に住民監査請求を起こしました。マスコミ各社もこれを大きく報道してくれました。

大阪府の息の掛かった監査委員たちの出した監査結果は、私達の予想通りに「却下」でしたが、やはり私達の指摘が的を得ていたと見えて、今年に入って大阪府は突然、従来の水需要予測を「12万m<sup>3</sup>、下方修正する」と発表したのです。

具体的には、紀川水系で予定していた26万m<sup>3</sup>余の水利権を、その分だけ引き下げると言うものでした。

これに対して私達は、これでは単に“お茶を濁した”だけであって、12万m<sup>3</sup>程度の修正では全く不十分であり、それどころか大阪府は、現在の水利権223万m<sup>3</sup>のまま、将来も充分、対応出来ると考えています。

その理由として

1) 1日最大取水量の実績値

念のためにご説明しますと、「1日最大取水量」とは1年365日の中で河川（大阪府営水道の場合は淀川）からの取水量が最も多かった日の取水量のことで、通常は7月か8月に発生し、ダム開発（水利権獲得）においてはこの値をクリアすることが目標となります。

さて、大阪府営水道（大阪府が営む用水供給事業）におけるこの10年間の実績値はと言いますと、次の通りです。

H3年	203万m <sup>3</sup>	H8年	202万m <sup>3</sup>
H4年	204	H9年	204
H5年（冷夏）	199	H10年	204
H6年（猛暑）	215	H11年	195
H7年	201	H12年	194

ご覧の通り、1日最大取水量は200万m<sup>3</sup>前後で推移しており、最近はむしろ減少傾向が見られます。もっとも平成6年だけは例外的に多く、215万m<sup>3</sup>を記録していますが、

ご記憶かと思いますがこの年は観測史上最悪の猛暑の年でした。それでも水利権量223万m<sup>3</sup>を下回っています。

2) 大阪府の水需要予測は“水増し予測”

大阪府の場合、大きく乖離する二つの水需要予測があることをお話ししました。このこと自体が異常なのですが、大阪府が正式に発表する予測においても、その中身は誠に杜撰と言わざるを得ません。前回平成10年2月に発表したのですが、それから僅か3年後の今年3月に再度、“修正版”を出し、ここにおいて前述の12万m<sup>3</sup>下方修正を行っているのですが、その内容を詳細に調べますと、これが欠陥だらけの代物です。

- ・生活用水原単位の設定
- ・有収率、負荷率の設定
- ・市町村の自己水の予測

などの点において、誠に恣意的、作為的であり、あちらこちらで“水増し”を行い、予め決めた「答え」に無理矢理、誘導したものに過ぎないと言っても過言ではありません。長くなりますので、ここで詳しくご説明することは差控えますが、是非ともこの委員会・部会において私達に、この点についての説明の機会を与えて頂きたいと考えております。

最後に、滋賀県の「丹生ダム」「大戸川ダム」について申し上げます。

ご承知の通り、どちらも多目的ダムであり、治水目的も持っておりますが、と同時に大阪府に対する水道水供給という利水目的も併せ持ったダムです。しかし私達は前述のように、大阪府は今の水利権で充分であり、これ以上は不要と考えております。

特に「丹生ダム」につきましては、次のような問題点を指摘せざるを得ません。

1) 水道用水のための利水容量が6100万m<sup>3</sup>もあり、この77%(4700万m<sup>3</sup>)が大阪府に対するものですから、このダム全体の有効貯水容量1億4300万m<sup>3</sup>のザッと3分の1は“大阪府用”ということになります。その大阪府が実は水を必要としていないとすれば、どうなるのでしょうか？

2) 「異常渇水時の緊急水補給」

このダム計画においては、一般のダムと異なり、「異常渇水時の緊急水補給」として

4050万m<sup>3</sup>という大きな容量が当てられています。これはこのダムの有効貯水容量の28%にも相当するものです。そして水資源開発公団発行のリーフレット「丹生ダム」には、その目的が次のように書かれています。

“異常渇水時に備えて緊急用の水を貯水池に備蓄しておき、淀川沿川地域において計画規模以上の異常渇水が発生した場合にこの水を放流します”

しかしこの説明は、平成4年に「琵琶湖総合開発事業」(琵琶総)が完成した今、奇妙な議論と言わざるを得ません。ご承知のように、「下流の大阪府、兵庫県などが渇水に困らないようにイザという時は琵琶湖の水位をマイナス150cmまでは下げよう、その場合でも滋賀県の産業や民生に支障は出ないように琵琶湖を整備しよう」として行われたのがこの事業であり、そのために大阪府や兵庫県などの淀川沿川の自治体が巨額の出資を行い、20年の歳月を掛けて完成された一大プロジェクトだった訳です。お陰で平成6年のあの記録的な猛暑、少雨においても、淀川沿線地域においては、一部の地域で減圧給水はあったものの、時間給水、断水などの大事には至らなかったのです。

琵琶湖について見れば、あの時の琵琶湖の水位低下は、最大マイナス123cmでした。「琵琶総」が設定していたマイナス150cmまで、まだ27センチも余裕があったのです。つまりあの渇水は琵琶湖にとっても“計画規模以下”の渇水だった訳です。

つまり史上最悪の渇水においても、琵琶湖、淀川沿川ともに「琵琶総」の計画規模を下回っていたのですから、「丹生ダム」において、敢えてそれを補う計画を立てることは誤りと言わざるを得ません。

以上のことから、このダムの規模について根本的な問題が2点あることが明らかになりました。

大阪府への利水容量	4 7 0 0 万m <sup>3</sup>
異常渇水時の緊急水補給	4 0 5 0 万m <sup>3</sup>
(計)	8 7 5 0 万m <sup>3</sup>

この合計値8750万m<sup>3</sup>はこのダムの有効貯水容量の61%に当たりますが、貯水容量の6割についてその必要性が無いようなダム計画は、一から再検討するのが当然だと私達は考えます。

冒頭に申し上げましたように、私達は大阪に拠点を置くグループですが、この数年を掛けて、淀川水系の川を逐一、見て廻りました。

木津川、桂川の各支流、滋賀県の湖東、湖西の各河川など、主要な川については殆んど見終わることが出来ましたが、その結論は「高時川ほど美しい川は無い」というものです。

冬季の積雪もあって未だ多くの自然が残されたこの川は、「淀川水系の宝」といっても過言ではないと私達は思っています。

この美しい川に、総貯水量1億5000万m<sup>3</sup>という桁外れの規模を持ち、淀川水系最大の巨大ダムを造るについては、我々の世代は慎重の上にも慎重であらねばなりません。今秋には「世界湖沼会議」が開催される環境県・滋賀県において、貴委員会や琵琶湖部会が主導的な役割を果たし、いま一度、広く市民の意見を聞いて十分な審議を尽くされますよう、心より願って止みません。